

## 茅ヶ崎香川教会宣教基本方針

わたしたち茅ヶ崎香川教会は、茅ヶ崎教会の五十年にわたる教会形成の歴史の中から“まことの教会”を立てようとする志をうけついでいる。もともと、教会とは、キリストのからだであって、わたしたちの願いや努力によってつくられたものではない。まったく上よりの、聖霊によって働く神の言によって立つものである。“まことの教会”の徴しは、<神の言の真の宣教>と<礼典の正しい執行>にある。すなわち、それが目指すところのものは、神中心の信仰にかたく立ち、キリストの主権に服従することである。

これをより具体的にのべると“まことの礼拝”において、神はわたしたちを招き給う。そこで復活し給う生ける主に出会い、主のみ前に先ず自己の罪を悔い改め、十字架の主による罪の赦しを与えられ、ついに主に栄光を帰しまつることである。イエス・キリストを信じる時、それは直ちにそのまま礼拝とならざるを得ないものである。従って礼拝こそは、福音をそこで聞くことによって、わたしたちが救われることである。神の招きはただ自分ひとり安逸をむさぼるのでなく、福音の進軍へと召集し給うのであり、み言の威力にうたれ、そこに現臨し給う主の力にふれ、そこから世に出て現実生活に力強く主を証し、キリストを主と崇めつつ奉仕に励むものである。

わたしたちの教会の神学的伝統は、福音主義信仰に立つ教会観であって、宗教改革時代の福音主義信条に示された福音理解を受け継ぎ、カール・バルトによって表明されている教会観を尊重する。彼らが明らかにしようとしたものは、この教会の基礎が聖書のみ言に立ち、基本信条とくにニケヤ信条、カルケドン信条に示された、キリスト告白によっているということである。従って、わたしたちが教会を信じるとは、教会そのものを信じるのではなく、その存在の根拠である、真の神にして真の人なるイエス・キリストを信ずることなのである。

わたしたちの教会は、1954年に制定された日本キリスト教団信仰告白を告白し教憲教規に従って教会を治め、日本キリスト教団の中であって自己を形成する。わたしたちはそこでイエス・キリストの主権に服従する以外、いかなる権威にも束縛されない自主独立の教会を目指す。また、わたしたちはキリストに真に服従するために、極力信徒の訓練を重視する。

わたしたちの教会では当然のことながら、聖書を学び、み霊の導きによる祈りを熱心に求める。

